

東北文教大学 広報誌

To Be!

VOL.

6

2020.3

見つける、叶える、になりたい自分。それが東北文教大流。



2021年4月、「人間関係学科」誕生!

(仮称／設置構想中)

これからの社会や企業のニーズに、 真に応えられる人材に

東北文教大学は、複雑化と多様化が進む社会に対応できる人材の育成に向け、2021年4月に向けて既存の人間科学部を発展的に改組し、「人間関係学科」の新設を予定しています。人間関係が希薄化していると言われていた現代において、再び見直されている「人間理解」の重要性。人間関係学科では「グローバルコミュニケーション

ション」「心理総合」「福祉マネジメント」の3コースを設置し、それぞれのアプローチによって他者を理解し思いやり、より豊かな人間関係を築くことができる力を養います。この改組により、人間科学部は子ども教育学科と人間関係学科の2学科体制に。より専門性を高め、これからの社会や企業のニーズに、真に応えられる人材の育成を目指します。

📝 学びのポイント

POINT
1

少人数制によるアクティブ・ラーニング中心の授業

少人数制教育のメリットを活かした、アクティブラーニング中心の授業を各年次で展開。グループワークやディスカッションを多く採用し、学生の主体性やコミュニケーション力を育てます。

POINT
2

コース制による柔軟な履修が可能

一つのコースの専門分野に学修の軸を置きながら、他のコースの分野の学修も柔軟に選択できるコース制の利点を活かして、専門に閉じこもらない複眼的・多角的観点を得ることができます。

POINT
3

社会の課題解決に取り組む多角的・実践的な授業を展開

地域を学びのフィールドに、社会に存在する身近な課題を考察。専門分野の枠にはとどまらない多角的なアプローチにより、課題を解決へと導くプロセスを実践的に学んでいきます。

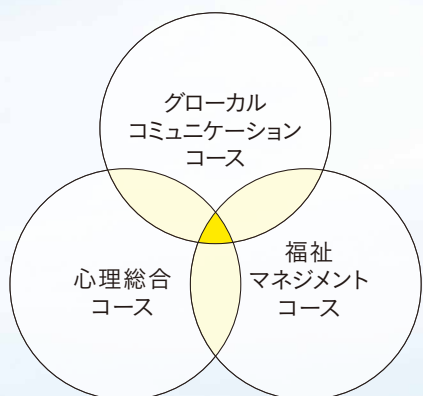
📖 身につく!こんな力



🎓 取得可能な資格

- 国家資格
 - ・社会福祉士 (国家試験受験資格)
 - ・図書館司書
- 民間資格
 - ・認定心理士
 - ・認定心理士 (心理調査)
 - ・準デジタルアーキビスト

※人間関係学科は設置構想中であり、学科名称・学修内容等については変更となる場合があります。



自分と向き合い、仲間と創造する。
文化や芸術に触れるって楽しい！

1 軽音楽部



音楽や楽器など共通の話題で盛り上がり、高め合える

機材が豊富で練習しやすく、他のサークルとの掛け持ちができる自由度もある軽音楽部。大学祭や地域のお祭りでのライブに向け、現在は「back number」や「あいみょん」のコピーバンドを組み練習中です。大学から楽器を初める人も多く、先輩は話しやすい人ばかり。とても社交的な雰囲気のサークルです。



短期大学部 人間福祉学科／1年
五十嵐 凜さん
山形県立鶴岡中央高等学校 出身



音楽をとおして実感した人とつながる楽しさ

打楽器経験者だったことから、最初は助っ人として参加した慰問演奏会。他にも定期演奏会や文化祭などの演奏の機会をとおして、人と人がつながれる音楽の楽しさに改めて魅了されていきました。部長として積極的に部員の勧誘を行い、3名から20名の増員に成功。意見をまとめる難しさに悩んだ時もありましたが、経験できて良かったです。

短期大学部 子ども学科／2年
白田 かえでさん
山形県立山形北高等学校 出身



4 ウィンドアンサンブル部



“書を楽しむ”気持ちを次世代にもつなげたい

小学校から続けている大好きな書道と関わり続けたいという思いから入部した書道部。“楽しま書”のモットーを掲げ、自主練を中心に活動中です。学内外での展示の機会もあり、今年度の全国書道展では入賞を果たすことができました。卒業後も書道を続け、将来は子どもたちに書道の楽しさを教えられる場を作りたいです。

短期大学部 総合文化学科／2年
土田 有紗さん
山形県立新庄南高等学校 出身



3 書道部



素直な反応や予想外の行動。教育の面白さを再発見

活動に興味を持ったきっかけは、高校生の時に参加したオープンキャンパス。子どもと関われる機会が豊富なサークルと知り、入学前から入部を決めていました。主に付属幼稚園の園児を対象に、水鉄砲やペンキ遊びなど様々な遊びを企画。子どもたちの反応を間近で感じながら、授業だけではわからないたくさんことを学べます。

人間科学部 子ども教育学科／1年
奥山 愛海さん
山形県立新庄北高等学校 卒業

2 “教育力向上サークル”



CULTURE 文化サークル編

趣味や教養を深められる、多彩なサークルが揃う東北文教大学。
今回は文化サークルの中から、代表して8人の学生に登場してもらい、活動の魅力や楽しさについて語ってもらいました。

手作りの人形劇で子どもたちを笑顔に

歌に興味があった私に、先生が勧めてくれた児童文化部。先輩方の楽しそうな雰囲気に惹かれ入部しました。県内の幼稚園や保育所、地域の催しに出向き、人形劇や紙芝居の公演を行っています。構成や役割分担、人形制作も自分たちで担当。「また来てね」などの言葉をもらえることもあり、大きなやりがいを感じられます。

短期大学部 子ども学科／2年
田代 小波さん
山形県立鶴岡北高等学校 出身



5 児童文化部

他国の言葉、文化。何もかもが新鮮で刺激的

韓国出身の私が入部したのは、留学生と日本人学生が交流するサークル「R.I.A部」。みんなで料理をしたり、お祭りに行ったり、他にも流しそうめんなど日本文化を体験するイベントに参加できます。活動をおとして日本人だけでなく中国人・台湾人・ベトナム人など様々な国の友達ができ、自分の視野を広げることができました。

短期大学部 総合文化学科／1年
徐 秀旻さん
正義女子高等学校（韓国） 出身



7 R.I.A（留学生と一緒に遊ぼう）部



みんなで作る喜びと美味しさを共有できる

元々料理が好きだった私ですが、活動をおとしてますます料理の楽しさに目覚めました。みんなで一つのものを作る喜びや達成感は、クッキング部ならではの。一人だったら普段は尻込みしてしまうようなジャンルの料理にも挑戦でき、自炊のレパートリーも広がりました。将来小学校教員を目指す上でも、貴重な経験になっています。

人間科学部 子ども教育学科／3年
小林 央奈さん
東京学館新潟高等学校 出身



8 クッキング部



出会いの中で得られた気づきや経験を将来の糧に

被災地の子どもたちと佐渡島に行った、やまぎんこども館で工作や読み聞かせをしたりと、近年は子どもを対象にした活動が中心。こども館では、子どもだけではなくその保護者、障がい者の方など、様々な方と交流を深められました。活動をおとして身につけた実践的な知識を、将来にも役立てていきたいです。

人間科学部 子ども教育学科／1年
村井 すみれさん
山形県立寒河江高等学校 出身



6 ボランティア部





下村 彦 SHIMOMURA KAZUHIKO 子ども教育学科 准教授

教員プロフィール／東北文科大学 人間科学部 子ども教育学科 准教授。東北大学大学院教育学研究科博士課程前期課程修了。専門分野は、教育学。担当の授業には「教育制度論」「幼児と環境」「保育内容総論」等がある。



子どもが主体となる遊びや生活から、
「話し合える力」と
「規範意識の芽生え」を育む

大切なのは子ども一人ひとりが主体になれるルールづくり

岡部／先生のご専門の一つである「幼児と環境」について教えてください。

下村／幼児教育・保育は、環境をとおして行うものです。子どもたちが主体的に遊びや生活ができるよう、どのような環境でどのような関わりを持つべきかを学びます。例えば体力向上を目的とするならば、足腰は平坦な場所では十分に鍛えられないので、築山を作る。教える側が主導になり登らせるのではなく、そこに草を生やすことで子どもが虫を追いかけて回そうと進んで登り下りしたくなる理由を作ることがポイント。よるけても手を貸さず、裏方としての保育を行うのが理想ですね。

岡部／関わり方にはどのような方法がありますか？

下村／遊びは本人の「やりたい」が前提です。各自のやりたいことを保障してあげるために「ゾーニング」という方法があります。一人で集中してやりたいのか、あ

る程度の人数でやりたいのか、その規模にも配慮しながら動的な空間と静的な空間に分けた環境を作ります。例えば、何も無いグラウンドで自由に遊ばせた場合、静かに遊びたい子と、ボール遊びしたい子のすみ分けができなくなってしまう。四方八方に散らばった子どもたちは目的や出会い、発展がなくなると飽きてしまうことも。また大人は子どもが道路に飛び出してしまうかなど常にハラハラしては強制的にルールを押し付ける状況になってしまいます。大人が安心して見守れて、かつ子どもが納得できるルールが重要なのです。もう一つの例として、滑り台は一人ずつ滑りましょうというルール付けをしていますが、しかし滑るより坂を登ることに面白さを感じる子どももいるのです。子どもたちと話し合った結果、滑ることより坂を登ることが優先というルールができたことがありました。これは体力の向上だけでなく、私たちが育みたい「話し合える力」と「規範意識の芽生え」にも繋がっていきます。ルールは必要ですが、

大人からの一方的なものにはしない環境づくりも大切ですね。

子どもが成長する喜びを保護者と一緒に感じる幸せ

岡部／保育者という仕事の魅力を教えてください。

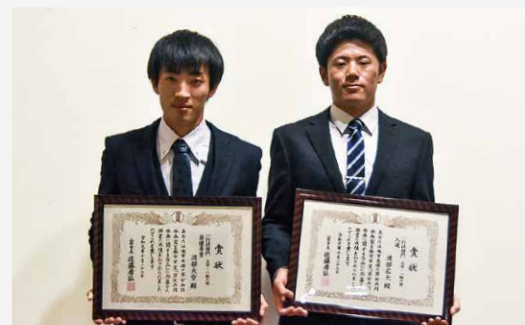
下村／子ども自体がとても魅力的なので、そこに関われることが私は幸せだと思います。また保護者は、幼稚園や保育園での子どもの様子を知りません。家庭で見せる姿と園で見せる姿は全く異なるもの。そういった新たな姿や、ちょっとした成長、変化を保護者に伝え、喜んでもらえるというルール付けをしていますが、人に関わり、色々な思いを共有できる点も保育者の魅力だと思います。



NOTICE BOARD



子ども教育学科の学生が
男女共同参画に関する一行詩部門に入賞。



山形市が主催する令和元年度男女共同参画宣言都市事業の男女共同参画に関する一行詩部門で、一般・大学の部応募305作品の中から渡部大空さん(子ども教育学科3年)が最優秀賞に、また渡部広太さん(子ども教育学科3年)が入選に選ばれました。審査対象となるのは、日頃感じる男女共同参画の一コマや、男女共同参画に対する想いが伝わる内容を一行で綴った自由形式の詩です。この部門への参加は、齋藤由美子先生(総合文化学科特任准教授)担当授業「男女共同参画社会」を通じて行われました。以下は最優秀賞(渡部大空さん)受賞作品です。「君にできて僕にできないこと。僕にできて君にできないこと。教え合おう。一緒にやろう。その方が楽しいんだから」



令和元年度幼児教育研究センター
保育実践研究会を開催。



10月26日、幼児教育研究センター主催による保育実践研究会を開催しました。全体会では、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の方からそれぞれの実践研究を発表していただきました。その後、3つの実践研究発表ごとに分科会を行いました。参加者の方からは発表内容に対する感想や質問を出していただき、質問に対しては実践研究発表者の方から丁寧なお答えを頂戴しました。分科会終了後は、参加者の方から保育現場の状況、課題などについてお話をいただきながら、明日の保育につながるような情報交換を行いました。県内の保育所、幼稚園、認定こども園等より約100名の方々に参加いただき、盛会のうちに終了することができました。



南山形小学校6年生との
「南山形周遊ツアー」を開催。



9月26日、南山形小学校の6年生55名及び引率教員4名と、地域のガイドスタッフ4名、本学の学生ボランティア6名及び教職員3名が、「南山形周遊ツアー」を行いました。「南山形周遊ツアー」は総合的な学習の一環として南山形小学校で行われている南山形地区を詳しく調べ、地域の良さを広める活動です。当日はどのコースも距離がありましたが、学生ボランティアの励みもあり、子どもたちは元気に歩ききることができました。参加した学生からは「自分たちの住む地域の歴史や宝を知り、愛着をおぼえることで郷土愛が育まれるのだと学んだ。私も教員になったら地域の歴史や文化をしっかりと知り、子どもたちに伝えていけるようにしたい。」などの感想が寄せられました。



個人・団体での大学見学を
随時受付中。



本学では、オープンキャンパス以外の日でも、個人・団体(学年やクラス単位でも可)での大学見学を随時受け付けています。見学の内容は学科説明・模擬授業・学食体験・キャンパスツアーなど、ご希望に応じて実施いたします。「東北文科大学の雰囲気をもっと確かめたい」「東北文科大学のことをもっと知りたい」という受験生や保護者の皆さん、ぜひ大学見学へお越しください。詳しくは入試広報センターまで、お気軽にご相談ください。
【入試広報センター】
TEL:023-688-2296/E-mail:GO@t-bunkyo.ac.jp



大学時代に実感した
「学びの楽しさ」を
今度は私が伝える番。

SHIMAKURA NAOKO

島倉 尚子さん

仙台育英学園高等学校

短大に進学したのは、もともと興味があった国語をもっと深く学びたいと思ったから。たちまち国語の面白さに目覚め、毎日のように図書館に通い詰めるように。中でも大好きだった国語辞典を、朝から晩まで読み耽っているような、我ながら変わった学生だったと思います(笑)。勉強が楽しくて仕方なかったものの、当時は教員になるという将来は全く想像ができませんでした。

そんな私の意識を大きく変えたのは、大学編入後に進学した大学院時代の塾講師のアルバイト。それまで学年最下位から2番目だった生徒の成績を、なんと上位から2番目までに伸ばすことに成功したので。今思えば、常に「勉強は楽しいもの」と自分の実体験として伝えていたことが、その子のやる気を育むきっかけに繋がったのかもしれない。持っている知識を教えることで、生徒やその保護者にこれほど感動してもらえることに驚き、教員になるという将来が現実化した瞬間でもありました。

現在、生徒たちと関わる中で大切にしているのは「今」という時間を懸命に生きること。今日の授業を大切に、今日の生徒からの相談を大切に、一瞬一瞬を頑張らなければ、期待する成果も得られないと思うからです。教員も生徒と一緒に頑張って、その結果が合格や就職に結びついたら、それ以上に嬉しいことはありません。

だから後輩のみなさんにも、大学時代という限られた時間を、あらゆることを面白がって大切に過ごしてほしいです。東北文教大には、色んな物の見方を受け入れてくれる素晴らしい土壌がありました。当時の経験は今の自分の原点であり、かけがえのない宝物となっています。

私の HISTORY

1年次

ここがターニングPoint!

図書館に通い詰め、一生分くらいの本を読み漁りました



山形女子短期大学に入学。国語の面白さに気づき、学ぶ楽しさと喜びを実感

プロフィール

1976年生まれ。宮城県仙台北高等学校出身。1998年山形女子短期大学(現 東北文教大学短期大学部)国文科卒業。同年、金沢学院大学文学部日本文学科に編入、2000年卒業。2006年二松学舎大学大学院文学研究科日本文学専攻博士課程前期入学、2008年修了。

現在

30代

27歳

卒業

元気な男子学生に負けないくらいのパワフルさで、担任としてクラスをまとめる。卒業生にも慕われる、みんなの姉貴分的存在に

仙台育英学園高等学校の教員として働きはじめ。授業中に東日本大震災を経験

塾講師のアルバイトを経験。選択肢にはなかった高校教員という将来が現実的なものに

「東北以外に友達を作りたい」という理由から卒業と同時に金沢学院大学に3年次編入

ToBe!

広報誌タイトル
「To Be!」の由来

To Beには「やがて～になる」の意味と「TOBE(飛べ)」という思いを込めました。
東北文教大学は「なりたい自分」を見つけ、未来に向かって羽ばたいていく皆さんを応援していきます。